

課題名：（総括研究課題名）HIV 検査受検勧奨に関する研究

（分担研究課題名）現在の HIV 検査法の問題解決と CDC の新規検査手順に準じた我が国の
新規検査ガイドラインの作成

公表年月日： 平成 29 年 11 月 24 日

公表の方法： 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会での発表

公表の題名： 新規 HIV 抗体確認検査試薬である Geenius HIV Confirmatory Assay の検討

公表内容の概要（400 字以内）：我が国では現在、HIV 抗体確認検査としてウェスタンブロット法（以下、WB 法）が用いられているが、米国では 2014 年に短時間の測定で HIV-1 と HIV-2 の区別が可能なイムノクロマト法が認可され、2016 年から実際の検査アルゴリズムに組み込まれて使用されている。この新しい抗体確認検査試薬である Geenius HIV Confirmatory Assay（以下、Geenius）について、現行の抗体確認検査 WB 法試薬であるラブブロット 1、ラブブロット 2（以下、WB-1、WB-2）との比較検討を行った。その結果、Geenius は WB 法と比べて特異度および感度の向上が認められ、これまで HIV の重複感染か交差反応か判定に苦慮することのあった WB-1/WB-2 両方陽性の検体においても Geenius では型別が可能であり、HIV 抗体確認検査試薬として有用であることが示唆された。また、Geenius ではバンド読み取り装置により結果を客観的に判定することから、結果解釈における個人差が低減するものと思われた。